

# 自転車 の基礎情報



平成28(2016)年5月20日 No. 8

## シティ車のタイヤの構造と劣化

自転車にとって絶好の季節となりました。自転車の利用が増えるにつれ、タイヤも消耗、劣化していきます。普段、余りにしないタイヤですが、今回は、シティ車のタイヤの構造と劣化についてご紹介します。

シティ車はWO(ワイヤードオン)タイヤを使用しています。WOタイヤは、リムに接する両端に金属のビードワイヤーを通してののが特徴で、針金式タイヤと呼ばれることもあります。タイヤの側面はサイドウォール、路面と接する部分がトレッドです。サイドウォールに比べ、トレッドにはゴムがより多く使用されていて、劣化の影響が大きいのです。

シティ車のタイヤの劣化には、主に日光、酸素、オゾンが関係します。まず、日光に含まれる紫外線がタイヤの色に影響を及ぼします。このため、極力紫外線の影響を減らすようにカーボンブラックという補強剤を混ぜています。また、カーボンブラックには、タイヤの摩耗を防ぐ性質もあるため、多くのタイヤに使用されているのです。カーボンブラックを使うことからタイヤは黒色になっています。

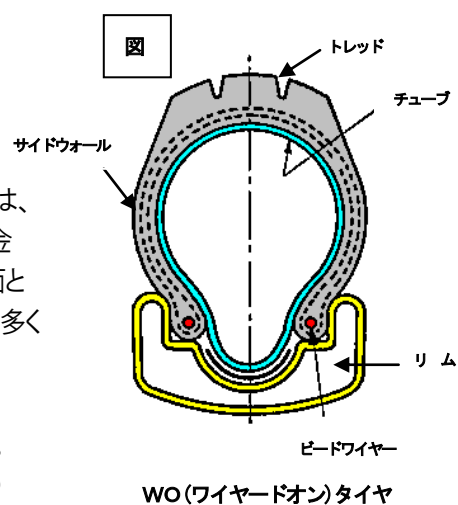
次に、大気中に含まれる酸素とオゾンはゴムの劣化を進めます。輪ゴムなどを放置しておくと、ぼそぼそになり切れてしまう経験をお持ちだと思います。同じように、タイヤの亀裂には酸素やオゾンが影響しています。

一方、酸素やオゾンの影響もあるのですが、シティ車のタイヤに空気が入っていない状態で駐輪すると、サイドウォールが折れ曲がり、ひび割れを起こしやすくなります。

シティ車のタイヤは脇役のように考えられますが、実は、主役級のとても大切な働きをしています。シティ車のタイヤを大切にするために、ご自分でも行えることがあります。それは定期的に空気を入れ、同時に、トレッドやサイドウォールにひび割れ、亀裂がないか、トレッドがすり減っていないか、をご自分の目で点検することです。

ちなみに、エアコンの室外機の周辺ではオゾンが発生していて、影響を受けやすいので注意しましょう。

次号は、平成28年6月20日に発行を予定しています。



WO(ワイヤードオン)タイヤ

図は当協会発行の自転車実用便覧第4版から引用しました。発行当時の図に一部名称を加筆しています。

### <発行>

一般財団法人自転車産業振興協会

〒141-0021 東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル4階

電話：03-6409-6922 FAX：03-6409-6868 <http://www.jbpi.or.jp>

